



まじめな富山男が火を噴く!

# アイツ、目の色が変わったぞ…… そして彼は無敵の プロエンジニアに変身する

「謹厳実直」誰もが富山人をそう表現する。  
子どもや高専生を前に、彼らは「熱」を帯びはじめた。

富山の県民性をたずねると、誰もが「**謹厳実直**」と口にする。今回のプログラムに際して改めてアンケートやヒアリングによってニーズを調査したところ、実はこの「**謹厳実直**」ならではの性格的なマイナス面をプラスに転じたいという声が多かった。それは、「コミュニケーション能力を高め、自分の意見を積極的に述べ、主体的に行動する力をもっとほしい」というものである。

そこで「14歳の挑戦」という中学2年生による企業へのインターンシップ制度がある等、教育県としての風土がある富山では、一連の研修の中で「教授体験」を実施。小学生や高専生に対して汗をかきながら技術的なことを説明すると、小学生や高専生から驚くべき質問が飛び出す。それによりプレゼンテーション能力が向上し、業務についての再認識にもなる等、主体的な専門家意識の向上効果が大いなのだ。

また、研修の効果を確かなものとするために、創造性を発揮する様々な技法を習得する合宿研修も行った。すでに参加したいいくつかの企業から「しばらくしたら、日常業務の中にも効果が現れはじめた」という声もある。

主催側の企画意図は「富山県内全体が変わる」。「若い技術者が積極的に動きはじめた」「富山県の産業界が変わった」という声をもたらすこと。そのためには、上司の意識も変える必要がある。現時点でも変化の一端は感じられ、周囲への影響がじわじわと表れている。



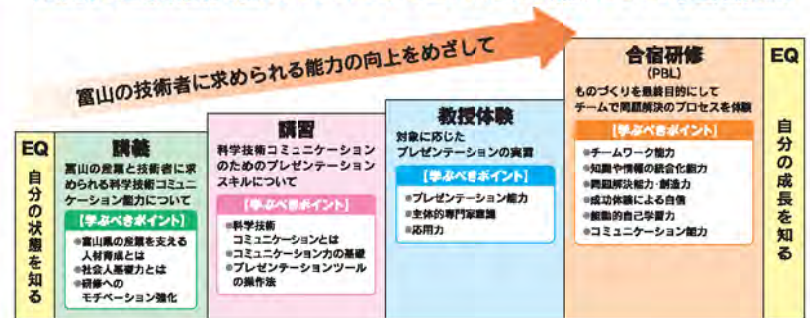
## 「熱く」ポイント

### 自分の関わっている技術を小学生や高専生に伝達する教授体験プログラム!

富山工業高等専門学校による独自の人材育成プログラム。実際の研修内容としては、まず、講義によって、科学技術コミュニケーションが企業の技術革新をもたらす可能性について学ぶところから開始。次に小学生や高専生などを相手に、自分の関わっている技術を対象に応じてわかりやすく説明する力を付ける「教授体験」を行う。その後、合宿研修ではPBL (Problem (Project)-Based Learning:問題解決型学習) という学習法を通して、ものづくりによってチームで問題を解決していくプロセスを体験。さらに、EQ検査<sup>※</sup>も実施することで、具体的に教授体験やPBLを自ら振り返ることもできるような仕組みになっている。

※EQ (Emotional Intelligence Quotient:感情・情動指数) は心の知能指数と呼ばれ、この理論のもとで、自分の感情 (Emotion) をコントロールして人間関係を適切に処理する能力を測るEQ検査。

### 「富山県の産業活性化を担うフレッシュエンジニアのための研修プログラム」全体構想図



## 参加企業Voice

社会の空気を全身で受けながら、「ガッツ」をもって仕事に取り組んでほしい

株式会社斉藤製作所 代表取締役社長 **斉藤 恵三 氏**

社会の空気を肌で感じる事が大切なので、社員には都心のフォーラムや展示会にも足を運ばせています。また、若い方に現場を目にしてもらうことで未来に貢献できればと、積極的に見学を受け入れています。若い社員は自分を表現することがあまり上手ではないので、今回のセミナーや教授体験に若手を参加させたのです。



基礎をかため、積極的に「自己発信」してほしい

コーセル株式会社 取締役会長 **鈴木 晴氏**

現在の高専・大卒は、20年前の工業高卒と同レベル以下なのではないかと危惧しています。基礎を学び、知恵や行動も伴わなければ、会社で役立つ人材にはなりません。富山人は粘り強く黙々と取り組みますが、「自己発信」が苦手な傾向性に欠ける面も。高専からは現場力をつけるために、共同研究や技術指導をいただいています。これからの中小企業はコア・コンピタンスの向上が必要だと思います。



「自分たちの会社である」という自覚と意欲の向上に期待

株式会社タイワ精糖 代表取締役会長 **高井 芳樹 氏**

私たちは経営内容を公開し、株の3分の2を従業員にもたせることで、従業員に自分たちの会社であるという意欲を促してきました。また、大企業の下請けをしないうという「自主独立」も貫いてきたのです。教授体験やPBLに参加した若手の意欲は向上しています。



「教え込む」「考え抜く」—— 高い目的意識によって自己実現を!

朝日印刷株式会社 代表取締役会長 **朝日 重剛 氏**

若手教育については「教える」ではなく「教え込む」「考える」ではなく「考え抜く」という習慣を身につけてきています。変革の時代にあっても、仕事に対する目的意識をもち、自己実現へと結びつけてほしいと思っております。富山県民は、まさに「謹厳実直」。誇りがありませんが、だから、この事業に参加させたのです。



この事業に関する  
質問・お問い合わせ先

財団法人 北陸経済研究所

〒930-8507 富山県富山市丸の内1-8-10

TEL.076-433-1134 FAX.076-433-1164 URL <http://www.hokukai.or.jp/>